

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第253集

家地頭古墳群

家地頭2号墳

長野県佐久市常田家地頭2号墳発掘調査報告書

2018.03

佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する家地頭古墳群家地頭2号墳の発掘調査報告書である。
- 2 調査は小池孝司が行うアパート新築造成工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 家地頭古墳群家地頭2号墳（Y G 2）佐久市常田3 3 4-2、塚原1 0 2 1-2他
- 4 調査期間及び面積 発掘調査：平成 29 年 7 月 3 日～7 月 25 日
整 理：平成 29 年 10 月 2 日～平成 29 年 12 月 27 日
調査面積：150㎡
- 5 本書に掲載した地図は佐久市役所発行の地形図（1：50,000）である。
- 6 遺構測量は T S を用い 3 次元データを取得した。取得したデータは株式会社 C U B I C の「遺構君」により図化した。図面トレースは、「遺構君」で行い、Adobe Illustrator で調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し Adobe Photoshop で補正等を行った。編集は Adobe InDesign で行った。
- 7 本書の作成・編集は小林が行った。
- 8 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 挿図の縮尺は遺構 1/100 を基本とする。
- 2 海拔標高は、水系標高をスケール上に「標高」として記してある。また、土層の色調は 1999 年版「新版標準土色帖」に基づいた。
- 3 調査区グリッドは公共座標の区割りにしたが、間隔は 4 m × 4 m で設定した。

目 次

例言・凡例

目次

I 発掘調査の経緯	1
1 経過と立地	1
2 調査体制	2
II 古墳の調査	2
III まとめ	4
写真図版	5
抄録・奥付	

I 発掘調査の経緯

1 経過と立地

家地頭古墳群は、佐久市の常田・塚原地籍に所在し、西近津遺跡群、常田居屋敷遺跡群と重複する。2号墳は古墳群の南端に位置する。遺跡は、濁川の流域に属し、塚原泥流層が風化作用により浸食され、最も堅い部分だけが残った所謂「残丘」が水田地帯に数多く点在する独特な景観地域に



第1図 家地頭2号墳位置図（1：50,000）



第2図 調査範囲図 (1:500)

2 調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会
 事務局 社会教育部
 文化振興課
 文化財調査係

教 育 長
 部 長
 課 長
 企 画 幹
 係 長
 係

臨時職員
 調査担当者
 調 査 員

榎澤晴樹
 荻原幸一
 小林義夫
 小林登志朗
 大塚広樹 (9月まで) 堀川宏幸 (10月から)
 小林眞寿 富沢一明 上原 学
 久保浩一郎 岩下 琴
 森泉かよ子
 小林眞寿
 岩松茂年 小林喜久子 羽毛田利明
 宮川真紀子 山口ひとみ 山田叔正
 油井満芳



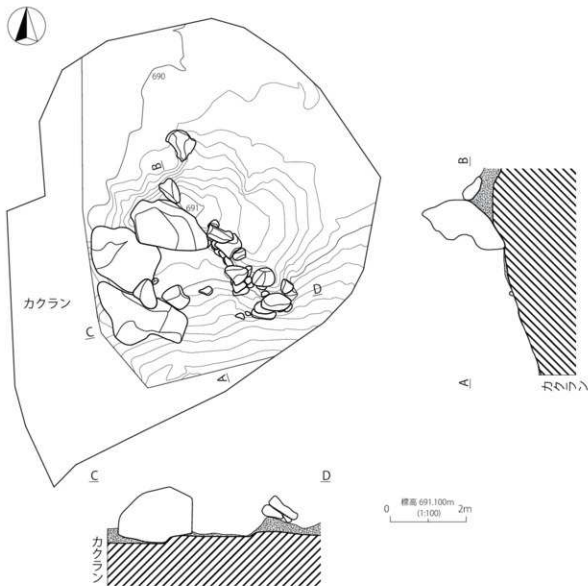
昭和47年航空写真

II 古墳の調査

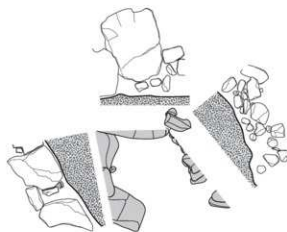
1 古墳と石室

(1) 墳丘 (第2・4図)

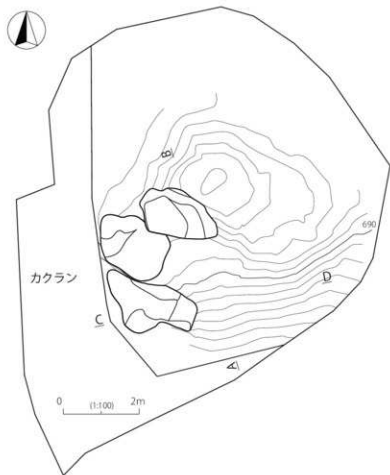
古墳は、浅間山塚原泥流の残丘を利用し造られている。露出した多孔質集塊岩を石室に利用するために頂部からわずかに西よりに石室奥壁が配置され、東南方向に開口する。長年におよぶ耕作及び、西隣りの宅地造成時の擁壁工事による破壊を受け原型は留めていないが円墳であった



第2図 家地頭2号墳平面図 (1:100)



第3図 家地頭2号墳石室展開図 (1:100)



第4図 家地頭2号墳掘方平面図 (1:100)

(3) 遺物

以上のような状態であるため、出土遺物は皆無であった。

Ⅲ まとめ

家地頭2号墳は、極めて残存状態が悪い古墳である。執拗な破壊を受け続けた結果、遺物は完全に消失し、その年代を知るすべもない状況であった。

家地頭古墳群で調査が実施されている家地頭第1号古墳とは、残丘を利用した立地や、石材等に類似点が多いが、これは古墳群が存在する地域の環境に依存する要因であり、おそらく古墳群内の他の古墳も同様であろうと思われる。

原因者の理解により、記録保存という必要最低限の措置がとれたことに深く感謝申し上げる次第である。

ものと推測される。地山である塚原泥流層上には古墳構築土と思われる部分も残存するが、耕作によるカクランが著しく判断が難しい。周溝、外護列石、裏込石は確認されなかった。推定される墳丘規模は径10m程度と思われるが、墳丘高については皆目見当がつかない。

(2) 石室 (第3図)

石室は横穴式で、玄門から羨道部分は残存しない。奥壁と西側壁が破壊により歪んだ状態にあり、位置的にも原位置を保持していない。石質は多孔質集塊岩である。調査時点では3個の石に分離していたが、本来は1個の岩であったものと思われる。この岩は残丘本体の露出部分であり、これを石室に流用していたものと思われる。この岩には、取り除こうとして付いた数多くの傷が残されていることから、当初は全く異なる形状であった可能性も高い。東側壁は2～3段の石積みが残っているが、状態は悪い。石質は多孔質集塊岩が大半を占めるが、安山岩も2個使用されている。床面は本来よりもかなり深く掘り下げられており、礎床面は残存していない。入口に向かい傾斜しており、床面状には後世に炭を焼いた痕跡や、現代の遺物が埋まっていた。



平成6年航空写真



家地頭2号墳完掘（東から）



家地頭2号墳東側壁



家地頭2号墳西側壁



家地頭2号墳掘方（北東から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	やちがしらこふんぐん やちがしらごうふん
書名	家地頭古墳群 家地頭2号墳
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第253集
編集者名	小林眞寿
編集機関	佐久市教育委員会
発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	20180331
郵便番号	385-0051
電話番号	0267-63-5321
住所	長野県佐久市中込2913
ふりがな	やちがしらこふんぐん やちがしらごうふん
遺跡名	家地頭古墳群 家地頭2号墳
ふりがな	ながのけんさくしときだ 334-2、つかほら 1021-2ほか
遺跡所在地	長野県佐久市常田334-2、塚原1021-2他
遺跡番号	33-2
北緯	36.16.32.8739
東経	138.26.41.0011
調査期間	20170703 - 20170725

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第253集
 家地頭古墳群 家地頭2号墳
 平成30(2018)年3月

編集・発行 佐久市教育委員会
 〒385-8501 長野県佐久市中込3056
 社会教育部 文化振興課文化財事務所
 〒385-0051 長野県佐久市中込2913
 TEL 0267-63-5321

印刷所 キクハラインク有限公司社